

## 【問題】

症例：40歳代，女性。

主訴：腹痛。

現病歴：2006年12月腹痛が出現し，近医受診。腹部超音波検査で径15mmの胆嚢ポリープを指摘され，精査目的で当科紹介入院となった。

既往歴，飲酒歴，喫煙歴，家族歴：特記事項なし。

入院時現症：身長155cm，体重49kg，血圧140/90mmHg，貧血や黄疸なし。

腹部所見：圧痛なし，背部痛なし。

入院時検査成績：血液生化学検査に異常所見はなく，腫瘍マーカーは，CEA 0.7ng/mL(5未満)，CA19-9<3U/mL(37未満)であった。

腹部超音波検査(US)・超音波内視鏡検査(EUS)：胆嚢体部に径15mmのポリープを認め

た(Figure 1a, b)。

腹部CT検査(MD-CT)：Dynamic-studyでポリープは濃染され，造影効果は静脈相まで持続していた(Figure 2)。

内視鏡的逆行性胆管造影検査(ERC)：胆嚢体部に有茎性ポリープを認めたが，膵胆管合流異常はなかった(Figure 3)。

1. 診断は？
2. 治療方針は？

解答は日本消化器病学会雑誌106巻12号をご覧ください

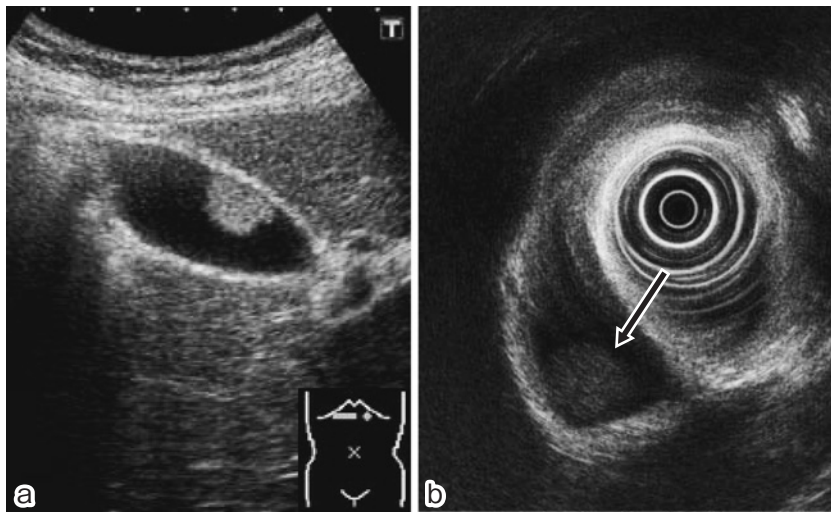


Figure 1. a: 腹部超音波検査(US). b: 超音波内視鏡検査(EUS).

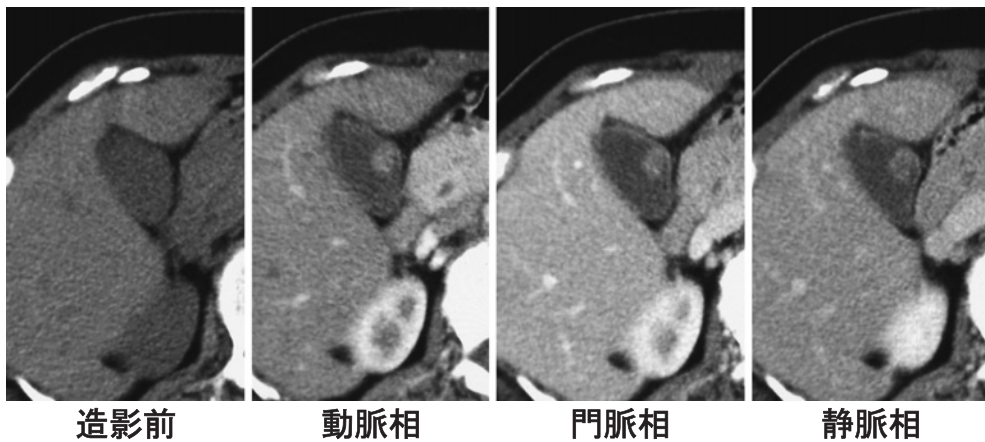


Figure 2. MD CT (Dynamic study).



Figure 3. ERC.